

1 学校教育目標

○思いやりのある子 ○深く考える子 ○進んで実行する子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童が安心して学び、安全に楽しく学習や生活ができる学校 ○教職員がチームとしての力を発揮し、教育目標の達成に燃える学校 ○児童、保護者、地域社会から信頼される開かれた学校
○児童・生徒像	○あるがままを受け入れ（受容）、互いの存在を認め合う（相互承認）児童 ○物事に自ら問いを見出し、知識を活用したり議論したりして解決につなげる児童 ○何事にも失敗はなく成長の一步と感じ、率先して一步を踏み出す児童
○教師像	○専門的知識、豊かな感性と人間性を持った教師 ○児童の成長を喜べる教師 ○責任感と協調性を有し、互いに資質・能力を高め合う教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

◎学校の現状

- ・児童数は350名程度であるが、欠席が一日平均10人前後と少なく、児童は明るく素直である。自分からあいさつできる児童が増えてきている。
- ・教師の人間関係が全般的に良好で和やかであり、前向きで意欲的・協力的である。指導力を高めたいという意欲とチームで指導に当たろうとする意識がある。

◎前年度の成果

「やるかやらないか」ではなく、「どうやるか」という目標を掲げ、学校教育活動全般を行っていくようスタートを切った。学習や行事などでは、児童の活動での活躍場面を確保することができた。また創立70周年を迎え、児童は地域関連学習を通して地域愛や学校愛を強くした。コロナ禍で疎遠となりがちだった地域との関わりも改善され学校が地域や保護者と連携していくいい機会となった。その中で児童は自己肯定感や自己有用感を高められた。

◎今年度の課題

学習面に本腰を入れたい。教員からも、学力向上に対する意識の高まりが見られるようになってきた。3年ぶりに異動者があり、学級担任では3分の1が入れ替わり、専科も含めると半数近くの教職員が入れ替わり、新鮮な目で見られることも増えると考えている。この好機を逃さず、同じ意識をもって学力向上の策を積極的に講じていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	◎	○	◎	◎	◎
2	心身共に健康で、心豊かな児童の育成	○	◎	○	○	○
3	安全への意識を高め、たくましく生きる児童の育成	○	○	○	○	○
4						

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題				達成度 ◎○△●	
区調査の通過率 75%以上		75%	86.4%	単元の復習を効果的に行った結果である。現5年は国語算数とも70%台なので、対策を講じる。				◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	・朝学習 (ベークタイム)	全児童 国語 算数	毎週火 (国語) 毎週水 (算数) 毎週金 (読書)	担任：学習内容の復習 ・確認 ・算数A Iドリル ・漢字スキル ・ <u>国語の文章問題を扱う</u>	算数：A Iドリル 国語：漢字 ミニテスト	活用の見通し がみついたら、算 数で毎時間、家 庭学習では週 2回以上活用	算数＝適宜 家庭学習＝週2回以 上	A Iドリルのさらなる 活用を検討して、基礎 学力の定着を図ってい きたい。	○
継続	・放課後学 習タイム	調査、単 元テスト 等で正答 率70%未 満の児童 国語・算 数	4～6 年(毎週 木) 1～3 年(毎週 金)	・担任(中間層)、専科(下 位層)の少人数指導 ・つまずきを遡り当該学年 及び前学年の内容を学習	定着度 確認テスト (12月、2月)	・区調査の通過 率75%以上	月2～4回程度実施 通過率： 国語68.8% 算数69.9%	会議などにより、実 施できないときもあ った。また児童の抽 出などにも教員差が あり、改善していく。	△

継続	西一タイム	単元テストなどで正答率70%未満の児童 国語・算数	毎週水5校時	<ul style="list-style-type: none"> 以下、学校全体としてシステム化して実施する。 …学力調査の結果を全学級が一覧表にして分析する。全体共有して学年や単元に特化した補充を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定着度確認テスト(12月、2月) 	<ul style="list-style-type: none"> 区調査の通過率75%以上 	通過率： 国語 68.8% 算数 69.9%	時間の捻出に課題が残った。次年度改善する。学力向上に対し、時間だけではなく質で取り組む	△
継続	・ICTの活用	全児童	各教科・領域等	<ul style="list-style-type: none"> 1日1回は、授業(算数)の中でタブレット(AIドリル)を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況について、7月、12月、2月に調査 	<ul style="list-style-type: none"> 2月の段階で担任の8割 	全児童に定着	4月当初と比較し日常的に活用できるようになってきた	◎
継続	・復習タイム	全児童	算数単元テスト実施後	<ul style="list-style-type: none"> 担任(上位層)、専科(下位層)の少人数指導 テストの解説、訂正をおこない上位層は発展問題、下位層は基礎基本の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ベーシック診断テスト定着度確認テスト(12月、2月) 	<ul style="list-style-type: none"> 区調査の通過率75%以上 	通過率： 国語 68.8% 算数 69.9%	基礎基本の学習の定着を図る活動を改善していく	△
継続	・家庭学習がんばろう週間	全児童	月初め1週間	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の提出率を確認 保護者への意識付け 	<ul style="list-style-type: none"> 年間3回の「生き生き生活週間」において学習時間の調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 設定した目標学習時間95%の児童が達成 	達成	生き生き生活週間はよくできていた	○
継続	・学校図書館の活用	全児童	その都度	<ul style="list-style-type: none"> 年間3回の旬間 年間2回の先生による各学級への読み語り 「調べる学習コンクール」での図書の利用と作品の応募3・4年に位置づけ 各学年の年間計画への位置付け 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書基本計画 	<ul style="list-style-type: none"> 1か月に2冊以上読む児童の割合50%(カード活用) 調べる学習コンクール応募3・4年全員 	達成	目標は達成したものの読書量はまだ少ないと感じる。次年度は組織的に図書教育の推進が必要	○

重点的な取組事項－2		心身共に健康で、心豊かな児童の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
心豊かな児童の育成	以下9基準のA評価80%以上達成	80%以上達成	教職員の連携で滞りなく実施できた	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
・心身の健康づくりの奨励	○健やか会議を1回開催する。 ○歯磨きの取り組み ○長縄や持久走の運動及び体力向上の取り組み	・心身の健康づくりをめざし、 <u>校医、PTAと連携して行う。</u> ・歯ろー6ちゃん(1年) ・短縄週間、長縄週間を年間2回ずつ実施、 持久走週間1回実施	健やか会議以外は予定通り実施	できることを、確実に実行し、結果を出す。という方向で取り組めたのはよかった。	○
・生活習慣の確立	○「いきいき生活週間」の取り組みを年間3回実施する。	・無理ない時間設定を相談し実行可能な目標で実施する	年3回実施。	反省点もあったため、より在籍児童に即した形に変更していくことで合意	○
・豊かな体験活動による思いやりの心の育成	○周年行事を通じた地域との交流 全学年が実施 ○ピカピカデー 年間2回実施	・各学年にテーマを設けた地域学習 ・地域の公園清掃奉仕活動	計画通り実施	地域との関係をさらに強化できる学習を検討する必要がある。	○
・「食」への自己管理能力の向上	○給食メニューコンクール ○食育授業 ○給食残さい率 <u>1.5%以内</u> を目指す。	・5・6年は全員が応募 ・各学年年間1時間以上 ・もりもり給食ウィーク	給食メニューコンクールでは、3名が受賞し(校長賞、副校長賞、栄養士賞)1月までにメニュー化済み	全職員の「食」に対する意識づけが必要と感じた。次年度へ向けて改善を図っていく。	○

重点的な取組事項－3		安全への意識を高め、たくましく生きる児童の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
安全意識の高揚		実施100%	安全意識の醸成は100%	学校全体で取り組むことができた。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
・保護者や地域関係機関と連携した保健・安全教育の推進	○避難訓練を年間11回実施。6年救急救命訓練(AED操作訓練含む)を実施。 ○薬物乱用防止教育(6年)自殺防止教育(5年)を年間1回実施。	・避難訓練年間11回(うち、可能ならば放課後子ども教室との共催) ・消防署見学(3年)消火訓練(4年)、起震車体験(5年)	予定通り実施。	学習との関連を意識づけさせたいため、来年以降見直し。AEDは対面研修を必須とする。	○
・地域安全ボランティア・保護者と共に児童の登下校の安全確保	○ <u>地域の方々、PTA 校外部と教員の下校の見守り年間2回実施。</u> ○年間3回の登校指導、あいさつ指導	・地域安全ボランティアへの感謝集会を11月に実施。 ・集団下校をPTAと連携し年間1回行う。 ・児童と教員で校門において朝あいさつ運動を行う。	予定通り実施。	地域安全ボランティアは高齢化が進み、人数減。対策を講じる必要はある。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【成果】

学校は、児童と教職員、家庭や地域の方の協力や温かい見守りもあり、大きな事故やケガもなく滞りなく年度末を迎えている。「心理的安全性の高い学校づくり」を目標として、子供を中心としたおおよその教育活動は計画通り行うことができた。不登校やいじめなどでは、児童の気持ちを一番に改善を図っていった。

【課題】

学力向上アクションプランのうち、放課後学習タイムや西一タイムを有効に活用しきれなかったところが課題である。その要因は以下の通りと考えられる。

- ・教員人材の入れ替わり➡半数以上が入れ替わったため、時間やICT、児童の特性などの活用や見極めが甘かった
- ・時程の変更➡働き方改革の一環として時程の見直しを図ったが、学習時間の捻出が難しくなってしまった
- ・授業力➡学力向上に結び付く授業力、指導力の向上が思うように図れなかった

【解決の方向性】

児童の実態に照らし合わせて課題を見だし、目先の知識の習得をゴールとせず、習得した知識の活用（思考力）まで見越した授業が行えるよう指導の改善を図ると共に、6年間を見越して系統的組織的に教育できるよう改善を図っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。令和5年度コロナが明け、新しい時代の変化を感じつつ、小学校教育が何をどのようにしていくか様々な場面で対応や判断をしていく1年でした。結果的に、年度当初に立てたプランを一部達成できなかったことは、反省点としてしっかりと受け止め、課題改善を図っていきます。そして、次の時代に対応できる「生きる力」を育むために、今何をすべきかを子供たちの実態から見極めて教職員一同「西一っ子」に最適な教育活動を施していく所存です。次年度も引き続きご理解ご協力をよろしくお願いいたします。